

エコアクション 21

# 環境活動レポート

2015 年度版

対象期間: 2015 年 4 月～2016 年 3 月

対象範囲: 全社

自動車、楽器等の部品に係る切削加工、  
鋳造品の製造



2016 年 9 月 5 日発行



アイ・ピー・テック株式会社

## 1 組織の概要

事業所名	アイ・ピー・テック株式会社		
代表者氏名	代表取締役 吉田 義弘		
所在地	〒431-3102 静岡県浜松市東区豊西町 1020		
環境管理責任者	中村 兼太郎		
担当者連絡先	EA21 事務局	電話	053-432-1600
		ファクス	053-432-1601
事業活動の概要	自動車、楽器等の部品に係る切削加工、鋳造品の製造		
事業の規模			
生産高	年商 6 億 2,949 万円 (27 年度)		
従業員数	32 名		
敷地面積	10,357.67 m <sup>2</sup>		
床面積	延 3,786.24 m <sup>2</sup>		

## 2 対象範囲

当社では全社・全活動をエコアクション 21 の対象としている。

### 3 環境方針

## アイ・ピー・テック株式会社環境方針

アイ・ピー・テック株式会社は、金属加工（切削・鋳造）の専門会社として、自動車、オートバイ、産業用ロボット、楽器等に使用される高品質、高精度な部品の製造を通じて社会に貢献してまいりました。弊社では、今般の環境問題に対する関心の高まりの中で環境に配慮した事業活動に取り組み、地球温暖化の防止、循環型社会の構築といった人類共通のテーマに挑んでいく決意です。

弊社では、エコアクション 21 に基づく環境経営システムを構築、運用することにより、環境保全への取り組みを具体的に行動いたします。

1. 事業活動において、環境負荷の低減に配慮して行動することを誓約します。
2. 温室効果ガスの発生抑制、廃棄物の削減、水使用量の削減、グリーン購入、化学物質の適正管理に取り組むことを誓約します。
3. 環境負荷の削減目標を設定し、目標達成のために効果的に取り組むとともに、定期的な見直し及び継続的な改善に努めます。
4. 顧客からの要求事項、地域等からの要請等も含めて、環境法規を遵守し、コンプライアンスを最大限に重視することを誓約します。
5. 環境活動レポートの発行、環境に関する苦情等に対する誠実な対応等、環境コミュニケーションに取り組むことを誓約いたします。

平成 25 年 8 月 30 日

アイ・ピー・テック株式会社

代表取締役

岩田 義弘

## 4 環境目標とその実績

環境目標は、二酸化炭素排出量、水資源投入量、廃棄物排出量に関する項目（売上高 100 万円当たり）について平成 23 年度を基準として、毎年 1% ずつ削減していく計画としている。

化学物質については、少量の取扱であり、適正管理をすることで対応する。グリーン購入及び製品・サービスに関する目標については数値目標を設定しない。

### 環境目標と実績

(数値目標は売上高 100 万円当たり)

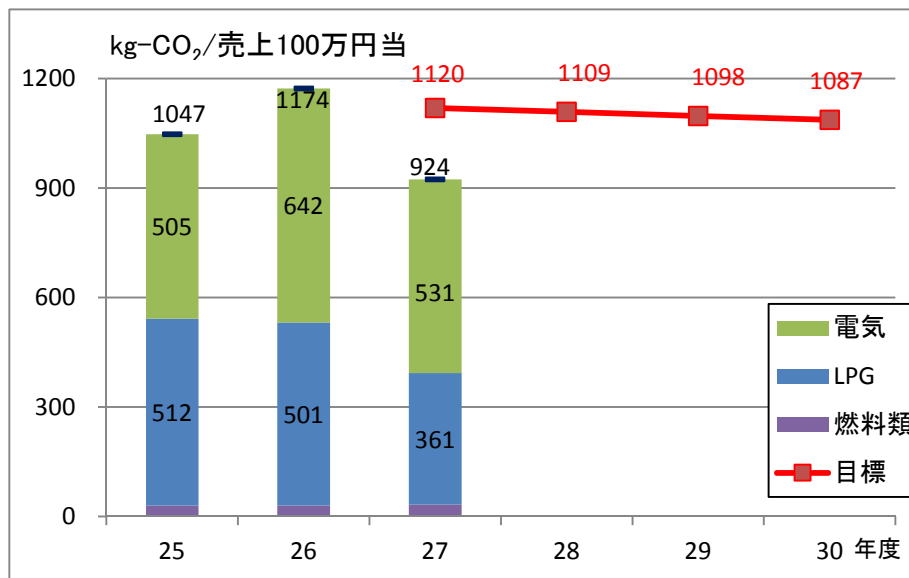
年度		25	26	27	28	29	30
二酸化炭素	実績	1047	1174	924			
	(内訳)						
	電気	505	642	531			
	LPG	512	501	361			
	石油類	30	31	33			
	目標			1120	1109	1098	1087
水	実績	4.61	5.08	2.86			
	目標			5.23	5.1777	5.13	5.07
廃棄物発生量 (再生利用はのぞく)	実績	15.52	15.92	16.44			
	目標			25.72	25.4628	25.21	24.96
再生利用率	実績	81.19	82.81	82.40			
	目標			83	84	85	86
グリーン購入	数値目標は 設定しない	□事務用品にはエコマークのあるものを積極的に採用する。					
化学物質		□適正管理に努める。 □非水溶性溶剤は研磨等に限定して管理する。					
製品・サービス		□生産性UPと不良率DOWNに取り組むことで、無駄な消費を抑える。 □生産活動における環境配慮、公害防止を徹底する。					

#### ※化学物質

少量の化学物質とは、N-N ジシクロヘキシルアミンを 2.0%含有する切削油があるが 2015 年は当該製品 1 リットル(含有量 2%)購入。

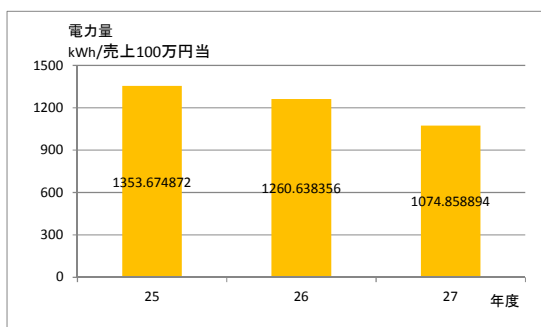
目標と実績値をグラフに統合して示す。

※当該年度売上高 100 万円当たりの量 各数値は、「環境への負荷のチェックリスト」に基づき算定

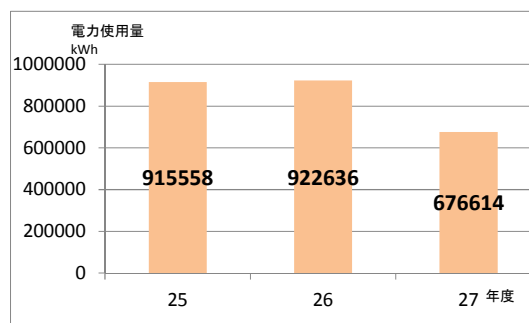


二酸化炭素排出量(売上 100 万円当たり)

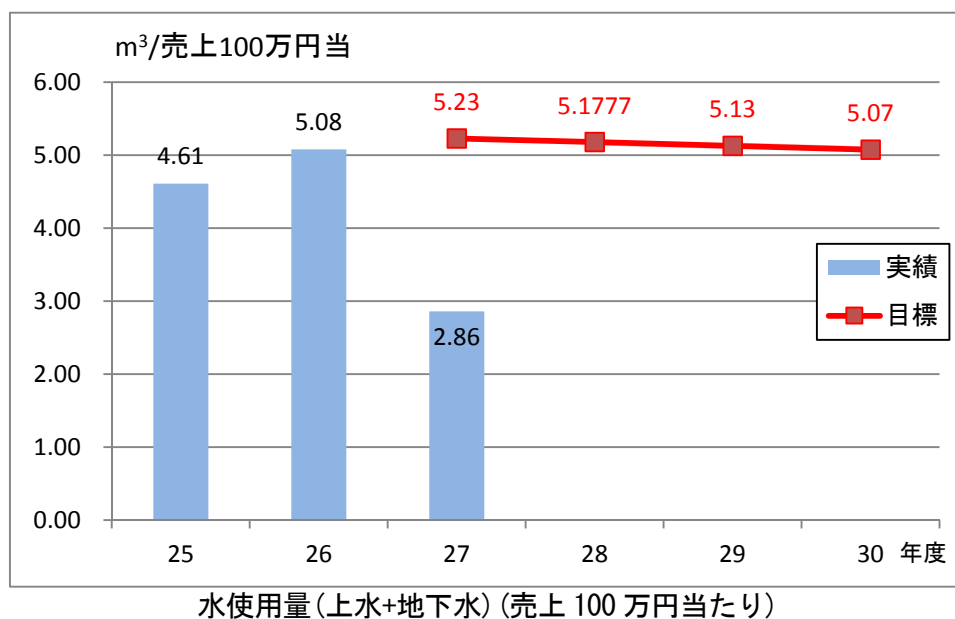
二酸化炭素の換算係数は平成 27 年度中部電力 0.494kg-CO<sub>2</sub>/kWh を使用



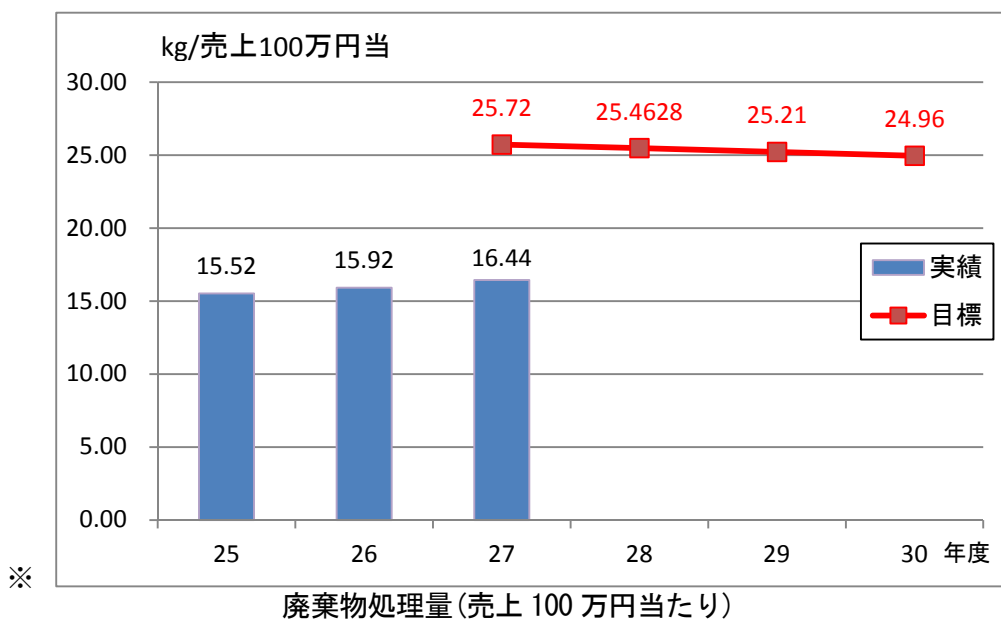
電力量 (kWh) (売上 100 万円当)



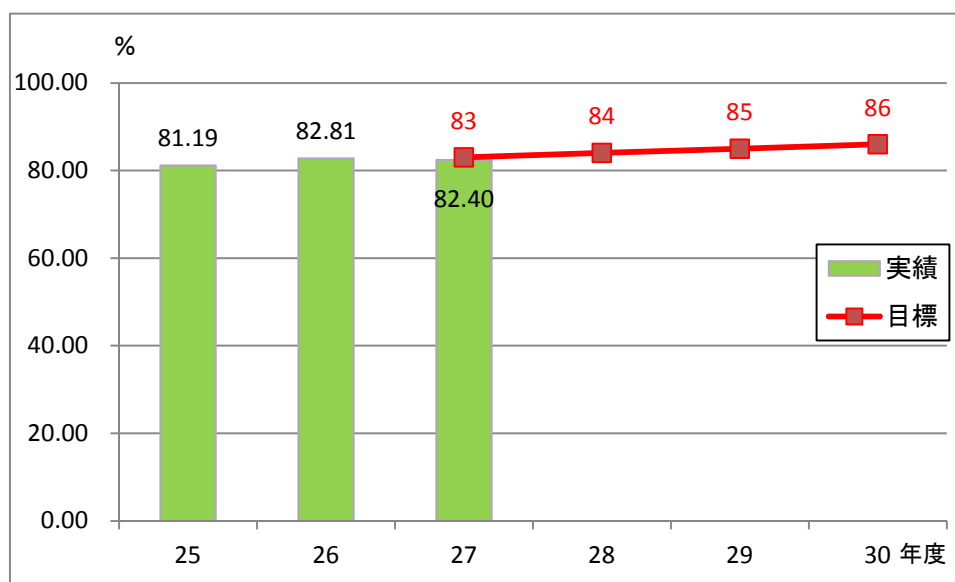
電力使用量(kWh) (実際の数量)



※ 生産変動に伴う変化と判断し、目標線等は継続



廃棄物処理量(売上 100 万円当たり)



再生利用率(再生利用量÷廃棄物総発生量)

※再生利用率は大きいほどよい。

## 5 環境活動計画の内容

### 目標設定と活動計画 (2015 度)

旧工場から新工場への移転後が一段落したこと、ISO9000 認証取得など品質システムを導入し、環境にも有効な生産性・品質への取り組みも進んだことから、2013 年度より活動計画内容を整理しわかりやすくしている。

**共通目標** 各項目について平成 27 年度は平成 26 年度目標値比 1%削減

項	目	取	組	内	容
全	体	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 顧客からの環境に関する要求に対応できる力を向上させる。</li> <li>▶ 社員からの発案を出してもらい討議する仕組みをつくる。(内部コミュニケーション)</li> </ul>			
二酸化炭素排出量の削減	電気	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 電気・電灯は必要な場所、必要な時だけに使用して節電を図る。</li> <li>▶ エアコンの設定温度を夏 28℃、冬 20℃の基準運転とする。</li> <li>▶ 節電呼びかけポスターを掲示し、啓蒙を図る。</li> <li>▶ エアー漏れの定期点検によりコンプレッサの消費電力を抑える。</li> <li>▶ 生産性UPと不良率DOWNのアイデアを環境管理者に提案することで無駄な消費を抑える活動を行う。</li> </ul>			
	LP ガス	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ LP ガスの環境寄与度は大きい。生産性 UP と不良率 DOWN に取り組むことで、無駄な消費を抑える。</li> </ul>			
	ガソリン軽油	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 計画配送を心がけ、優しい運転の励行(急発進、急加速、空ふかしをしない)により燃料消費量を抑える。</li> <li>▶ 新規導入時には環境配慮の車輛を優先購入し、減税制度などの恩恵も見逃さないようにする。</li> </ul>			
	灯油	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 暖房は必要な場所、必要な時だけに使用して節約を図る。</li> <li>▶ 温度の基準は 20℃とする。</li> </ul>			
水利用量排水処理		<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 節水の呼びかけタグ添付</li> <li>▶ 配管、蛇口等の水漏れの定期点検</li> <li>▶ 生産性UPと不良率DOWNに取り組むことで、無駄な消費を抑える。</li> <li>▶ <b>水を消費する工程で使用削減の取り組みを見つけて実行する</b></li> <li>▶ 排水処理装置の適正管理を励行する。</li> </ul>			
廃棄物発生量		<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ まず排出抑制をする。⇒ごみを出さないよう心がける。</li> <li>▶ 大きく明示した分別容器を作成し、分別の徹底を図る。</li> <li>▶ コピー紙の裏紙活用と再生紙の積極購入</li> <li>▶ 再生利用できるものは再生利用に回す。</li> </ul>			
グリーン購入		<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 事務用品にはエコマークのあるものを積極的に採用する。</li> <li>▶ <b>どんなものがグリーン購入品なのかを簡単にリストアップする。事務用品カタログからグリーン品を基本的を選ぶ。(量的な目標は不要)</b></li> </ul>			
化学物質		<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 適正管理に努める。</li> <li>▶ <b>非水溶性溶剤は研磨等に限定して管理する。</b></li> </ul>			
製品・サービス		<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 生産性UPと不良率DOWNに取り組むことで、無駄な消費を抑える。</li> <li>▶ 生産活動における環境配慮、公害防止を徹底する。</li> </ul>			



### 2015年 活動スケジュール

●環境目標と目標を達成する為の取組

----->計画      ○ 良      △ 問題あり

2014年度の目標	活動内容	2015年												2016年			備考	責任者
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
前年実績の1%減	1 二酸化炭素排出量の削減	----->												----->				
	①社用車の効率的な運転	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			加藤(清)
	②冷暖房の温度管理	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			川合
	③使用していない部屋の電気の削減	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			加藤(真)
前年実績の1%減	④LPガスの二酸化炭素排出量の削減	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			匂坂
	2 廃棄物排出量の削減	----->												----->				
	①紙類・廃棄物の分別回収による資源化	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			松浦
前年実績の1%減	3 総排水量の削減	----->												----->				
	①節水に心がけ排水量を減らす	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			伊藤
グリーン商品の購入	4 グリーン購入	----->												----->				
	①グリーン商品の購入推進	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			川合

## 6 環境活動の取組結果の評価

### 環境目標に対する評価結果

環境目標項目	所見	指示
二酸化炭素	<p>実数、売上高換算値ともに前年度比減少</p> <p>昨年度は目標超過したが今年度は目標にも適合</p> <p>二酸化炭素について、電気、ガスの占める割合が圧倒的に高く、節電とともにガスの節約対策が重要な意味を持つ。</p> <p>目標線は将来変動が不透明なため継続</p> <p>LPG 消費削減対策にも本腰を入れるべき</p> <p>ガス消費において、空運転、必要以上の予熱時間、待機時間等はないか? 再チェック</p> <p>現場からの運転改善提案の募集等の策が考えられる。</p>	<p>設備更新時に省エネ型のものを導入</p> <p>燃料転換は二酸化炭素排出量削減に大きな効果がある。(LPG ⇒ 天然ガス、都市ガス) 将来への検討課題とする。</p> <p>電力自由化になったので、二酸化炭素排出係数の小さい会社に変えることも検討価値あり。ただし、会社のサービス内容と当社稼働実態とのバランスは要検討</p> <p>省エネ効果がある設備投資には公的資金の補助金が付く場合がある。(要審査、必ず採択されるわけではない)</p>
水使用量＝排水量	<p>27 年度は冷却水使用が少なくなったため減少</p> <p>現場では無駄な水が減るよう取り組んだ。</p> <p>生産変動に伴う変化と判断し、目標線等は継続</p>	<p>排水処理施設のオーバーホール等を検討した方がよい。</p>
廃棄物(発生量と再生利用率)	<p>廃棄物量は 25 年度以降 15～16kg/売上 100 万円で推移している。</p> <p>リサイクル率が鈍化したのは、分母(総廃棄物量)が生産変動のため減ったため。</p> <p>リサイクル率の目標設定は現行を維持する。</p>	<p>実績に基づき目標線を 24kg⇒19kg 程度まで引き下げを検討</p>
化学物質(切削油)	<p>原則として水溶性溶剤を使用。</p> <p>研磨工程に限定して非水溶性溶剤を使用するよう管理する。</p>	
グリーン購入	<p>2015 年度に購入した主なグリーン購入品実績は 160 品目中 7 品目 (48.1%)、金額ベースで約 46.9%であった。</p> <p>ボールペン、フラットファイル、再生紙入り古紙等・・・</p>	<p>取り組み継続</p>

## 7 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境関連法規への違反はありません。なお、環境に関する訴訟、関係当局より違反等の指摘は過去3年間ありません。

### 主要な環境法規制

法規の名称	遵守内容	チェック結果
騒音規制法 振動規制法	・ コンプレッサが特定施設に該当	届出済 届出内容変更なし 2014 年度からマシニングセンタが 3 台増えているがこれらは届出対象設備ではない。
静岡県環境保全条例 (大気汚染防止法特定施設ではない)	・ アルミ溶解炉が該当	届出済 定期排ガス測定実施済
水質汚濁防止法	・ 排水処理施設が特定施設に該当	届出済 定期水質検査実施済
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・ マニフェストの発行 ・ 許可業者との書面による契約 ・ マニフェスト交付状況の報告	マニフェストは綴じて保管 許可業者との書面契約あり・ 許可証の有効性確認あり 浜松市廃棄物対策課へマニフェスト交付状況報告済(2016年5月)
浄化槽法	・ 浄化槽の定期点検、水質の維持	法定点検の実施済

## 8 代表者の評価・見直し結果の概要

- 前年同様に、景気動向はそう簡単に全てが好転するわけではない。その意味では常に心を引き締めて対応することが重要である。
- 2012 年度以来 ISO9000 を品質システムとして導入したことで、不良品を出さないようにする取り組みが進んだ。不良品が出ないことで、無駄が減り、やり直しや手戻りが減り、これは正に事業活動に伴うエネルギー、資源そして廃棄物の削減そのものを意味している。このため、品質システムの取り組みを進めることで、環境活動にも相乗効果が生まれるものとする。
- 燃料転換は二酸化炭素排出量削減に大きな効果がある。(LPG ⇒ 天然ガス、都市ガス) 将来への検討課題とする。
- 電力自由化になったので、二酸化炭素排出係数の小さい会社に変えることも検討価値あり。ただし、会社のサービス内容と当社稼働実態とのバランスは要検討
- 省エネ効果がある設備投資には公的資金の補助金が付く場合がある。(要審査、必ず採択されるわけではない)
- 排水処理施設のオーバーホール等を検討した方がよい。
- 廃棄物については、リサイクル推進により産業廃棄物の削減をするよう検討する。

次年度の活動計画

**共通目標** 各項目について平成 28 年度は平成 27 年度目標値比 1%削減  
 廃棄物発生量は、実績に基づき 28 年度目標を 19kg/売上 100 万円とし以後毎年 1%削減

項	目	取	組	内	容		
全	体	<ul style="list-style-type: none"> <li>顧客からの環境に関する要求に対応できる力を向上させる。</li> <li>社員からの発案を出してもらい討議する仕組みをつくる。(内部コミュニケーション)</li> </ul>					
二酸化炭素排出量の削減	電気	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気・電灯は必要な場所、必要な時だけに使用して節電を図る。</li> <li>エアコンの設定温度を夏 28℃、冬 20℃の基準運転とする。</li> <li>節電呼びかけポスターを掲示し、啓蒙を図る。</li> <li>エアー漏れの定期点検によりコンプレッサの消費電力を抑える。</li> <li>生産性UPと不良率DOWNのアイデアを環境管理者に提案することで無駄な消費を抑える活動を行う。</li> </ul>					
	LP ガス	<ul style="list-style-type: none"> <li>LP ガスの環境寄与度は大きい。生産性UPと不良率DOWNに取り組むことで、無駄な消費を抑える。</li> </ul>					
	ガソリン軽油	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画配送を心がけ、優しい運転の励行(急発進、急加速、空ふかしをしない)により燃料消費量を抑える。</li> <li>新規導入時には環境配慮の車輛を優先購入し、減税制度などの恩恵も見逃さないようにする。</li> </ul>					
	灯油	<ul style="list-style-type: none"> <li>暖房は必要な場所、必要な時だけに使用して節約を図る。</li> <li>温度の基準は 20℃とする。</li> </ul>					
水	利	用	量	排	水	処	理
		<ul style="list-style-type: none"> <li>節水の呼びかけタグ添付</li> <li>配管、蛇口等の水漏れの定期点検</li> <li>生産性UPと不良率DOWNに取り組むことで、無駄な消費を抑える。</li> <li>水を消費する工程で使用削減の取り組みを見つけて実行する</li> <li>排水処理装置の適正管理を励行する。</li> </ul>					
		<ul style="list-style-type: none"> <li>まず排出抑制をする。⇒ごみを出さないよう心がける。</li> <li>大きく明示した分別容器を作成し、分別の徹底を図る。</li> <li>コピー紙の裏紙活用と再生紙の積極購入</li> <li>再生利用できるものは再生利用に回す。</li> </ul>					
		<ul style="list-style-type: none"> <li>事務用品にはエコマークのあるものを積極的に採用する。</li> <li>どんなものがグリーン購入品なのかを簡単にリストアップする。事務用品カタログからグリーン品を基本的に選ぶ。(量的な目標は不要)</li> </ul>					
		<ul style="list-style-type: none"> <li>適正管理に努める。</li> <li>水溶性溶剤使用に切り替えそれを維持する。</li> </ul>					
		<ul style="list-style-type: none"> <li>生産性UPと不良率DOWNに取り組むことで、無駄な消費を抑える。</li> <li>生産活動における環境配慮、公害防止を徹底する。</li> </ul>					

2016年 活動スケジュール

	2016						2017					
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
エコアクション 21 審査							審査					
担当者会議 (効果検証・ 月1回)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
緊急事態 対応訓練										○		
教育訓練							←→					
経営者の見直し 評価					○							
環境活動 レポートの 発行					○ 2016 版							